

平成26年度「将来を担う医学生，研修医等をサポートするための会」

日 時：平成27年2月27日（金） 19:00～20:20

場 所：大分大学医学部臨床講義棟中会議室

報告者：大分県医師会男女共同参画委員会

委員長 谷口 邦子

大分県医師会男女共同参画委員会 谷口邦子委員長の挨拶に続いて、大分県医師会の後藤正幸理事の司会でシンポジウムを行った。

(1) 大分県医師会の取り組み 大分県医師会理事 後藤 正幸

大分県医師会の「女性医師の会」から「男女共同参画委員会」の今までの経過を話され、10年間の現状把握はできているが、具体的な方法が示されていないと指摘された。「職場アンケート」の主な点（時間短縮，複数主治医制，ワークシェアリング，保育施設，学童保育，病児保育，当直の免除など）を説明された。

(2) 行政の取り組み

① 大分県福祉保健部医療政策課地域医療政策監 西永 和夫

大分大学では34.8%が女性医師，全県的には20%が女性医師であり，30代，40代が67.5%を占める。キャリアを離れること，育児，家事と仕事の両立などが問題である。

政策として

1) 短時間正規雇用支援事業 代替医師の確保をする

平成25年度の利用者は1施設であった

2) 院内保育所設置 開設後3年以内に認める。1～6名の規模の運営費を支給する

3) 院内保育所の整備 助成金を支給する

4) 「医療勤務環境改善支援センター」 平成27年度は努力義務である

「医療経営アドバイザー」「医療労務管理アドバイザー」を置く

5) 平成27年度に「女性医療人支援センター」を設置

大分大学附属病院，県内医療機関が対象である キャリア継続，復職支援，キャリアアップを行う

② 大分県生活環境部県民生活・男女共同参画課主幹 稗田 淳

“アイネス”として活動している

男女共同参画度を調査した

男女共同参画基本法には5つの柱（男女の人権，制度，政策，家庭，国際社会）がある
ジェンダー平等が必要である

平等感同感しない 仕事と家庭の両立が必要である

配偶者の暴力（DV）が問題になっている

(3) 大分大学の取り組み 大分大学女性研究者サポート室長 松浦 恵子

研究サポーターを設置している

保育所の病児保育400名に上る

広報活動の必要がある

「女性医療人キャリア支援センター」 26年12月に設置された

3月27日に集会を開く予定

問題点 (後藤理事)

①産前産後の休暇体制 (主治医ペア制, バックアップ体制)

個人・親戚, 職場, 所属医局, 同窓会, 女性医師の会でドクターバンク登録制度

②乳児期, 学童期の病児保育を含めた支援体制

③職場復帰への支援体制 (専門的, 基礎的, 対人面, 精神面)

対人面, 精神面は地域の医療機関でも可能である

④勤務体制の柔軟化 時短, 17時まで, 当直など

新研修医制度, 専門医制度などについて, 「2025年問題」として, 行政, 医師会, 基幹病院, 大学の連携した話し合いの場が必要である

フロアから

大 学: 医学教育が大事, キャリアについての認識が必要である

場合によってはトップダウンも必要である

行 政: 院内保育所を3年から10年に延長する予定である 施設から情報発信が必要である

大 学: 大学は診療・教育・研究で人手不足である

医師会: 女性医師の声を聞くことが必要である

行 政: 人手不足に時短で対応する

行 政: 医師の選択肢がいろいろある

県内定着では自治医大が, 12, 3名, 平成19年からの地域枠は平成29年に36名, 36年に

50名になる予定である 地域枠に専門医のキャリアを組み合わせる必要がある

大 学: 管理者の理解, 話し合い, 学生の意識改革(選択の幅, 柔軟性)が必要と思われる

女性医師に教育を手伝ってもらってはどうか

医師会: 話し合いが必要である

県からの情報発信が必要である

今回の研修会は日時のせいか学生の出席が少なかったが, 行政の方, 大学の管理者の方, 医師会の理事の先生と現場を担っている人の参加と貴重なご意見をいただき, 実りある研修会になった。希望事項がぜひ実現できるよう, 皆様のご協力をお願いしたい。

